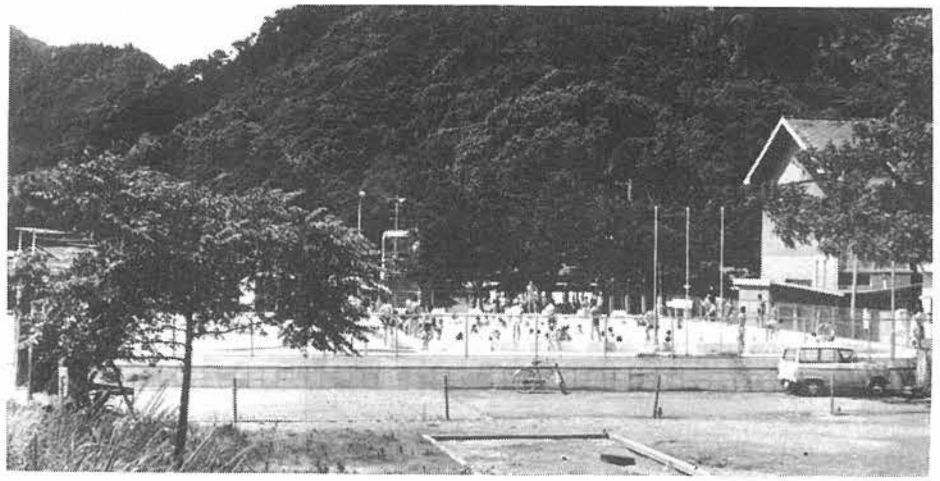
津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番



子供の天国　津奈木町プール

通産省
工業開拓指導員
本町干拓地を視る

町長　鶴田宣尊

町民のみなさんお元気ですか。今年はたしか梅雨が早く明けて、暑さが早くおとずれ、しかもいきなり猛暑がやってきました。

せっかく本町発展のためご精進をお願いいたします。

さて、私の頭を去来していつも離れないのが工場誘致の問題であります。

去る六月一日、農村工業化の方向をさぐるため、通産省の工業開発指導員の一行が本町を視察されました。

干拓地を工場に売りこむのはこの時とばかり、町会議員全部の出席をお願いし、役場職員全員と共に出迎え、私たち関係職員は町会議員と一行を干拓地に案内いたしました。

この一行はこの日午前中は八代臨海工業地帯を視察して本町に来、次は水俣市を見ました。

この指導員は通産省の委嘱した最も権威ある会であることは、その肩書きを見てもわかります。

○通産省小長立地指導課長
○いすず自動車株式会社磯野常務取締役。
○日本靴下協会西村会長
○リコー株式会社三善取締役
○日立製作所岩松企画室長
○新農政研究所武田副室長

以上六人はいずれもわが国の工業開発という重責あるのみならず、その種の業界の代表格の人々でもありますため、津奈木の干拓地を知ってもらうには、この上ないよい機会でありました。

干拓地を見ての一行の一致した感想は次のとおりでした。

一、風光が明媚で、工業用地としては最適である。
二、陸上海上の輸送に便利である。
三、現在の土地では工場には適しないので、早急に次のことを実施すること。
(1)埋立をすること。（更に土を盛り上げる。）
(2)工業用水を確保すること。

埋立てるには四億を要し、水もかんたんに出るものではありませんので、この分では、前途道遠しの感をいだかるるかもしれませんが、業種によっては低くても結構というのもあり、昨日（七月九日）も、ある会社から申し込みがあり、望みなきにあらずの感を強うする喜ばしい事実であります。

しかし、公害のない、基礎の大丈夫な、大規模の工場を呼ぶにはやはり、指導員の指摘のとおり埋立をし、十分の使用にたえる量の水を確保せねばなりません。

とくに埋立ては、できるだけ急ぐ必要があります。一町で四億とは荷が重すぎますので、県にお願いして達成したいと考えています。

勲五等瑞宝章

故成田正信先生

略歴
大正七年十一月六日　誕生
昭和十一年三月　芦北農林卒
昭和十三年　改姓成田
昭和十三年七月（平国小）より
昭和四十六年五月（湯浦小）まで教員生活三十四年間の功績を認められて上記の栄誉を得られた。（備考）平国小、五年九月間
津奈木小、七年間

津奈木方言チンナリタンナリ（七）

○アタデ、アタダニ（急に、にわかに、わざわざ）
アタデ　ウッタッテ　キタ（急に準備してきた）
○オテツキ　（十分に）　オテツキ、クウタ（十分に食うた）
○オゾヤケニ（おぼろげに）オゾヤケミユル（おぼろに見ゆる）
○シングリ（心から）シングリニナッテムカル（一生懸命になって手むかう）
○シガラコガラ（がんじがらめ）シガラコガラクビル
○ズベシ（すべて、みんな）ズベシデケタ（みんなできた）
○セングリ（順に）
○タッツケ（急に）タッツケセンカ（急いでしなさい）
○タンペン（度毎に）クルタンペンニ（来るたびごといつも）
○ニキ（そば）ハシノニキノキ（橋のそばの木）
○マルケ（まれ）マルケコラス（時々来らす）
○イッタネ（一段と）ソギャンスレバイッタネイタカ（そんなにすれば一段といたくなる）
○カッツリ（丁度）　ツリノイランゴテカッツリダセ
（釣りのいらないように丁度出せ）
○グングラグッド　（身動きも声も出ぬさま）　オルガシコテコイウタラグングラグッドモイワナカッタ。（オレガ思う存分言うたら、相手は一口もいわなかった）
○ゴイト（急に）　米びつもうんとて食えばゴイゴイする。
○シリット（びくとも）　ヒトクチグライジャシリットモセン（一口言うた位じゃ動きもせん）
○ジグラグリット（ぐるりと廻った）
○チンナリタンナリ　（少しづつ）
○ボサット（気が抜けたように）ボサットシテタットル
○ヨウト（完全に）　ヨウトツマランゴテナッタ（完全にやられた）
○バラット（うすくまばらに）
○ウンナリクンナリ（ああいえばこう、こういえばああ）
○シンデンコンデン
○イッペコッペ（どこもかしこも）家の中をイッペコッペ見ツケタ
○カツガツ（次から次へ）デケルトカツガツ持ッテユク
○イケェ（さぞ、大変に）　イケェウレシカロ（どんなにうれしいことだろう。

道や川をきれいにする桜戸部落　毎土曜に集めて処分

忘れられた家庭教育

国立教育研究所々長　平塚益徳

まことによいお話と思いまして、一部「日本PTA」より転載させてもらいました。熟読玩味をおすすめ致します。

実は、明治時代から、大正・昭和の初期ぐらいまでの家庭教育の方が、今の一般の日本人の家庭教育よりも、はるかに教育的だったということにご注目ねがいたい。今の日本は、たいせつな家庭教育を忘れております。皆さん方はそうではないと思いますが、日本全体を考えてみますと、それが言えると思います。わたくしは前に、ヨーロッパの先進国とアメリカの家庭教育の比較研究をしました。徹底的に調査しましたが、この研究でわたくしがまちがいないと思っておりますので、あえて苦言を呈します。

第一は

家庭教育では、人間として愛情というものを体験させなければならない、ということです。これは、どうしても家庭でなければできないことです。この体験のない人は人間として成長しないということです。よく青少年の不良化の原因を、欠損家庭であるといいますが、決してそうではありません。いわんや貧困家庭でもありません。一番大きな原因は、小さい時に、人間の愛情というものを体験しなかったということです。とくにおかあさんの愛であります。ただし、ここでぜひつけ加えておきたいと思いますことは、愛情といっても、いわゆる猫かわいがりの愛情では、絶対にありません。また、叱ることでも、つき離して、にらみつけて叱るのでは困ります。抱きしめて本当に叱るということです。叱るということのない愛情というものはありえないのです。子どもたちは、叱られるということの中にも愛を体験するという、この形において、第一の家庭教育の任務を果さなければなりません。

第二は

ほかの人のことを考える、ということであります。サービスをするということです。これは、小さい時やらなければだめです。ことばを変えていいますと、家風、おとうさん、おかあさんの言わず語らずのうちの模範、これを示範として、おとうさん、おかあさんが、ほかの人々にサービスをしているということは、子どもにも絶対的な意味で、人間としての基礎的な訓練をするわけです。アメリカのいい家庭における、うらやましい点を紹介しますと、アメリカぐらい小さい時に、人さまに物をさしあげることの喜びを教えている国はありません。人にプレゼントすることの喜び。これは聖書にあることばですが、「受けるよりも、与うるは幸いなり」と、これが、アメリカのいい家庭における家庭教育に貫かれています。また、イギリスのいい家庭における家庭教育で、第一に子どもたちに教えることばは、「サンキュー」と「プリーズ」です。ありがとうと、どうぞということばは一番最初に教えるというのです。日本は、もっと学ばなければいけませんね。

第三は

小さい子どもの時に、欲をおさえる教育をするということです。今の日本は、これが本当にできていません。これは、アメリカの悪い影響もあるわけです。「フラストレーション・セオリー」という学説が、それであります。それは、欲求不満説。子どもたちが、欲求不満をもったら、満たしてやらなければいい子には育ちませんというものです。もちろん、のどがかわく、おなかがすくというときに、水を飲みたがり、食事をしたがるということは、当然これを満たしてやらなければいけませんが、別な種類の欲求不満については、欲求が無理だということの自覚を持たせることの教育が、なされなければなりません。

例えば、昨年からの大学騒ぎ。あのときの重要な問題をここで申し上げておきますと、学生が、いろいろと要求するわけですが、教授側が、好意的にそれを応じるというと、もう学生の要求に応じてやったから、これで落着すると教授側は思っても、学生は、またその上に新しい要求をもってくるわけです。

小さい時に本当に要求すべきこと、要求そのものを吟味し、反省し、できるならば、おさえるということを教えないからいけないのです。残念なことに、人間というものは、非常に欲ばりであります。これは、いいとか、悪いとかというのではありません。人間は生物の中で一番無力で生まれてきています。カントという有名な哲学者のいったことばで、わたくしが、忘れることのできないことが二つあります。一つは、まだ目の見えない、生まれたばかりのツバメが、糞をするときには、ちゃんと巣の外にするということです。本能の力で、自分の巣をよごさないということを、ツバメの子どもは知っているわけです。

これに比較して人間はどうでしょう。おしめのごやっかいにならない人はいないでしょう。この人間がやがて、お月さまのところまで行くのです。これができるのは、ほかから吸収するという、人間に与えられた一つの本能があるからです。だから、吸収するということと、すなわち欲ばりということは悪いことではないわけですが、ただ欲ばっても無理なこと、まだ早いこと、いけないことを、小さいときから、けじめをつけて教育するということであります。

もう一つのカントのことばは、「小さいときに、自分の欲をおさえることを教わらなかった人は、不幸だ」ということです。わたくしは、民主主義のはきちがえによって、叱ることを恥ずるような、ちゅうちょするような、そういうようなはきちがえによって、不幸な人間をたくさん作りつつあることに、日本全体が、考えなおさなければならない点だと思うのです。

青年団だより

※ 郡総合青年祭七月二十五日「日曜日」に決定、場所は佐敷中学校昨年度総合優勝の津奈木、芦北・湯浦合併によりわれわれの二連勝なるか？（種目）陸上競技・男女バレーボール・卓球・意見発表・機関誌・演劇・郷土芸能・絵画・彫刻・書・写真・衣生活・食生活・住生活・コーラス・生花・以上。

※ 第二回支部対抗バレーボール大会成績

体育部長山路英樹君入院中のため不安であったが、団員全員の協力によりぶじ終了。参加チーム、平国支部・赤崎支部・大泊支部・小津奈木支部・あつまろ会・倉谷支部・千代支部約七拾名の参加者の中で開始。

（順位）優勝千代支部、二位大泊支部、三位赤崎支部、あつまろ会。

※夏期キャンプ研修会、吹上浜に決定。期日七月三十一～八月一日（土・日）会費五百円。申込みは各支部長へ。または事務局まで。

（優勝千代支部）
千代支部のみなさん入院中の山路君へよきプレゼントになりましたね。おめでとう。

最近到着図書

台所・便所・浴室・トイレなど改造されたり、家を改造されたりなさる時にはご参考になる本があります。

結婚式の祝辞はユーモアが必要です。そのかっこうの手引書もあります。

最近購入図書

○トラトラトラ　○ラブストーリー　○球磨川の歌と歌人　○郵政百年のあゆみ　○大深海一万米へ　○海底都市への世紀　○世界の松下ソニー本田　○恩讐の彼方に　○熊犬物語　○子どもの料理　○パンめんとごはんもの　○漱石とその時代　○人間革命　○徳川太平記　○お菓子　飲み物　○結婚スピーチ傑作集　○小鳥の飼い方　○小鳥（洋鳥和鳥）の正しい飼い方　○行動学入門　○熊本年鑑　○疾風月影　○明治天皇　○肥後の石工　○坂道　○柿の木のある家　○一直線　○東海道膝栗毛　○春の坂道　○浴室洗面トイレット　○台所食堂　○浴室洗面所トイレ　○東京大空襲　○方位学入門　○杳子妻隠　○誰のために愛するか　○零戦―日本海軍の栄光　○パールハーバー　○シンガポール山下兵団マレー電撃作戦　○恋するこころ　○冠婚葬祭入門　○続冠婚葬祭入門（一二三四）　○初めての増改築　○台所　○考え方の技術　○運をつかむ　○沖縄　○その他児童生徒向き図書たくさん。

盗まれた鯉善意で返る

水俣市長野の
小山武春さん
（西日本紙　中尾氏提供）

津奈木小学校庭園

天明町の
木下　　力さん

世の中が自分さえよければという時代に、津奈木小学校の池の鯉をぬすまれて、先生子供がガッカリしているとき、四月二十五日の熊日の記事を見て、その日の中に、天明町の木下力さんという方から電話で「鯉をやるからすぐ取りに来い」と、

また二十七日には水俣市長野の小山武春さんという人から同じような便りがあった。

両方のお家からたくさんの鯉をいただいて、さびしかった池が急ににぎやかになり、学校は生色がよみがえってきた。

そして子供たちは、この二方にどうして報いようかと、児童会を開いて次のことを決議した。

㈠鯉が元気に泳いでいる様子を絵にして送ろう。

㈡お礼の手紙や作文を送ろう。

そして児童会代表は総代としてお礼状を作品と一しょに送ることも……

私（岡松）は天明町の木下さんのおうちをたずねて、子供の作品を見せてもらった。絵・作文が―三年～六年―たくさんあった。

その手紙の中から

××××××

……世間にはこんなやさしい人がいるのだと初めて知りました。

それにくらべて鯉をぬすんだ人はだめだなあと思いました。その人におじさんのことを話してあげたいくらいです。……

××××××

……今わたしたちは、おじさんを見習って、世界の不幸な人を助ける「ユニセフの募金」をしたり、けっかくの薬が安く買えるために「切手集め」などをしています。わたしたちでも、おじさんのように困っている人を助けられるのだと始めて知りました。

これからも、困っている人のためにつくしたいと思います。

××××××

……残った少ない鯉をみると、とてもかわいそうでした。元気な鯉がたくさん泳いでいたころを思い出すと、鯉をぬすんだ人をうらみたくなります。

私たちはこんなにかなしいのにあんなにたくさんの鯉を手放されたおじさんは、どんな気持ちだったでしょう。……

××××××

……わたしはおじさんのように、大きくなったら、やさしい心をもっている人になりたいと思いますわたしたちの鯉をとっていく悪い人にはなりたくないと思います。

○○○○○○

ぬすんでどんなに人をかなしませるか、

恵んでどんなに人を喜ばせるかということを、今度の鯉の一件で津奈木小学校の子供は、十二分に知ったことだろう。

このことは何物にもかえがたい収かくであったろう。

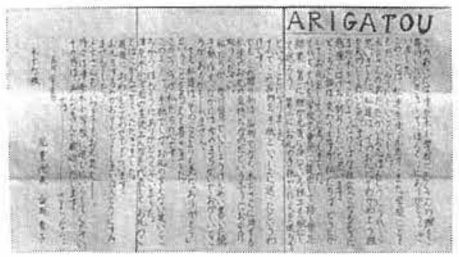
鯉を失った損失より、人の善意がいかに大きいものであるかを知ったことの方が、どれだけか大きいと思う。

◇　◇　◇　◇

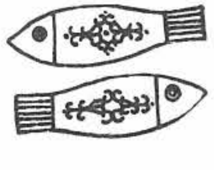
左の写真は児童会代表が天明の木下さんに送った手紙です。要点

○○○○○○

「たくさんの鯉ありがとう。鯉は大切に育てます。木下さんのようなりっぱな社会人になるよう勉強します。…決議したことは前掲…手紙でしかお礼を申し上げられないことを許してください」



ARIGATOU



おれは荒滝五大夫だ

林田義人

……八代の船着き場で、四・五人の仲仕がもてあましていた石を、天高くさし上げ、地中深くたたきこんだ……話のつづき

きのう、ヒョンなことで暇ぐらししたので、今日は朝早くから父と荷あげをはじめ、潮もひき仕事も大体かたづこうという正午近く三人の男が息せききって走ってきた。よく見ると昨日の仲仕連中であった。

汗をふきふき、いきなり、

「実はお宮の大相撲に一人の強い力士がきて、誰がむかっても勝てない。

『もう外に強いもんはおらぬのか』

といばりちらすので、シャクにさわって、腹の虫がおさまらない。ところがお前さんのことを思い出し、お前さんなら大丈夫ということになって、こんなにして相談にきたのだ。どうぞこのところきいてもらいたい」

とおがむようにたのむので、父に相談すると承諾したから行くことにした。

「行くには行くが、腹ごしらえするから、ちょっと待ってもらいたい」というのもおしきって、「飯はお宮で腹一ぱい食わせるから」と、ひっぱるように父と二人をいそがせた。

なるほどお宮の相撲場は黒山の人出だ。

さっそく飯を食ったが、朝からの仕事で腹はへっていたし、おまけにうまさもあって、十人前ばかりの弁当箱が重なった。

弁当食うのをもどかしと見まもっていた世話方始め見物人は、土俵に上ったおれに送る拍手はすさまじかった。

さて、しきりもそこそこに取りくんだが、こちらから手を出さないで、相手のなすがままにこらえていた。

いつまでも勝負がつかないのを歯がゆがった父が大声で

「こら！お前はネセはきらんとか！はよネセろ」とさけんだので、「それでは」と、イッキに一とひねりしたら、相手は苦もなく腹ばいになった。

その時のヤンヤの声は耳をろうするばかりで、一人一人が立って万歳をした。

こちらは、相手にならぬものに勝ったからって、うれしくもなかった。

これが、おれが相撲界に入るきっかけになった。

小・中学生は
十時までは家庭に
プールは五時まで
日没には家路に

親と子の夏休み心得帳
夜とくるまのおそろしさ

終戦前後のドサクサに、十人もの女を犯して殺したいわゆる小平事件というものがありました。二十年たった今日、第二の小平事件ともいうべき大久保清は、画家や高校の先生をよそおって、新車に女をのせて遠く人目をさけ、次々に殺しています。

娘はくるまに弱い

このごろの女はとくに車によわいといわれます。これが走る凶器ならぬ「走る密室」「走るわな」となっています。「自分は今、おおかみのわなにかかったかなナ」と気のついたときには世間の目からはるかに遠い山中につれ去られています。この時になって、けなげに純潔を守らねばならぬと、男にさからったところで、もう取りかえしがつかず、男の欲望をますます高め、自分を死に直進させることの外何にもありません。

ひっかかりやすい女

大久保は、ひっかかりそうな女を選んで、ゆうかい目的で声をかけたもの七十八人とか、その中ひっかかったものが何人か、殺されたもの何人か、取りしらべがすまない今日、わかりません。

このごろ、「被害者学」という学問があるそうで、それによると被害者には共通した特色がある。例えば、服装の色はピンク、黄、ベージュは男を呼びやすく、態度では（受動的）（積極的）なのがひっかけやすいと。

女が加害者

逆にいえば、この種の女は、男を挑発して男に犯行させたもので、むしろ加害者は女であります。

例えばミニスカートがそれです。「これでもか」「これでもか」と、からだを露出して男心をゆすぶりたぎらせる。性についてはおどろくばかり女が積極的です。

犯罪は夜おこなわれる

「少年非行」というパンフレットに、性的非行を四つだけあげてあるが、みな「くるま」を利用して、そして、みな「夜」犯行がなされています。

大体、女というものは「だれでも」「いつでも」「どこでも」性的被害をうけやすいということを親も娘も十分知っておかねばなりません。

夜の外出はつつしむ

これまでは女についての注意でしたが、男も同然であります。

端的にいえば、小学校の上学年から中学校になると、夜出るのは犯行をおかしにゆくようなもので（犯行をしかける、うける、）その犯行は人目のない夜行なわれます。

何としても、夜は外出させないように、また、見知らぬ人の車に乗らぬように。

栄養料理で早死では！

— 運動 —

これまでは、栄養一辺倒で、「人間は栄養のあるものを食べてさえいれば、健康で、長生きできる」と教えられてきた。

今日暮らしむきが上向いて、栄養価の高い食品が出まわり、いつでもどこでも手軽に買えるようになったが、果して長生きが栄養と比例して延びるようになったかはうたがわしい。

国立研究所で栄養と運動と寿命との関係を白ネズミを使って実験してみた結果

一、一番長命したネズミは、高タンパクの、高脂肪をとった上に、水車やモーターを回す運動したもの。

二、一番短命だったものは、高タンパク、高脂肪をとって、運動をしなかったものであった。

三、高タンパク、高脂肪をとって運動をしないネズミでも、エサ量を六〇%ぐらいに減らすと、からだは大きくはならないが、寿命はのびた。

高タンパク、高脂肪で、運動をしないネズミは、脂肪の厚さが、運動をするネズミの三倍もある。解剖すると、動脈硬化をおこしている。

肥満した人間は、普通の人間に比べて「糖尿病」が三倍「心臓病」による死亡率は一・六倍、成人病の死亡率はぐっと高くなり、寿命は短くなる。

まあ、うまいものを食べるのもいいが、運動を忘れちゃダメということ。

運動をするということは、カロリーを消費、発散するという単純な意味からではない。ホルモンの働きや酵素のはたらきが高まって、脂肪の沈着防止になり、成人病系統の予防にもなる。

（西日本紙より）

田草取歌

○「大手（うて）ば登れば二の丸までよ。上に登れば首がとぶ。」

註　今の城山の頂上に本丸があり、それをかこんで二の丸があったところの歌と思われる。

○「鶴が舞う舞うお城の上に、岩にかくれて声ばかり」

註　城山を舞鶴城といった。岩とは長半岩のこと。

○「城は舞鶴薬草岳よ、浜にゃかもめか磯千鳥」

註　薬草岳＝やくそんだけ

○「ごがつァ（五月は）田植えて田の草とって、ごじょの（御上納）おさめにゃ荷は下りぬ」

もみすり歌（おしまど）の節で歌う。夏の真盛りこのうたをうたいながら田草取る図はまったく夏の風物詩であった。

（提供　山崎直次郎氏）

文芸

詩

林田　たま

きさらぎ寒く海荒れて
うねりも高く波しぶき
瀬にうちあげて純白の
どとうさかまく日向灘
一望千里小きざみに
ならぶ岩石うるわしく
その名も鬼の洗たく岩
壮観人の胸満たす。
鵜戸のみやしろ洞深く
祈りをこめて石投げし
海に沈めば願いごと
かなうのつたえありという
砂浜遠く青島に
しげるビロー樹みんなみの
想いはるかに島めぐり
自然ゆたかに人をよぶ

短歌

鶴田和子

○金婚を祝われて旅立つ老夫婦　あまりに悲し「ばんだい」の事故
○退勤の時すぎてなお陽は高く　海風にしばし涼をもとむる
○担任の子らの記録を書き終われば　夜更けて蛙の声絶えまなし

岩美会肥後狂句

（順不同）
堀双缶選

こらこら知らんて思うてほらふくな　あひる
こらこら呑うでハンドル握ぎるなよ　〃
犬と猿、桃太郎時代はよかったが　〃
こらこらそこにはするな立小便　拙者
こらこらよそ見するならさでこくる　〃
犬と猿職員室でもお辞儀せん　〃
こらこら天地の神が見とらすぞ　三澄
こらこらとぼけた面が物言いおる　〃
犬と猿妥協の出来る筈が無ァ　〃
こらこら意見聞く時ァ横向くな　呑牛
こらこらポストに小便しかくるな　〃
犬と猿今日はむごう仲のええ　〃
こらこら横断歩道を通らんか　わらび
こらこらまちっとスカートのばさんか　〃
犬と猿咬み合うくせに寄って来る　〃
こらこらもしもしちゅうておらるるか　渕上
犬と猿頼む方向間違えた　〃
犬と猿側からねじ巻く奴もおる　〃
こらこらそのべからずが見えんとか　双缶
犬と猿と云うて別れちゃァおりきらん　〃
犬と猿偶にゃ同車もよかろうばい　〃
こらこら昔のくせのなほらっさん　健男
こらこらインチキ飛車は指し直せ　〃

次号「暑さ暑さ」「ホッとして」六句限り
七月末日まで。